

2015年6月期第2四半期 決算説明会



株式会社ユビテック

JASDAQ : 6662

会社概要

ユビテックについて

会社概要

設立	1977年11月
上場	東京証券取引所 JASDAQ
資本金	891百万円 (2014年12月末現在)
従業員数	124名[連結] (2014年6月末現在)
本社所在地	東京都品川区西五反田1-18-9 五反田N Tビル6F
親会社	オリックス株式会社
連結子会社	ユビテックソリューションズ株式会社 UBITEQ SOLUTIONS VIETNAM, LTD.

経営陣

取締役	宮内 健一	代表取締役 執行役員 社長
	林 雅弘	取締役 常務執行役員 (株)ユビテックソリューションズ 代表取締役社長
社外取締役	徳田 英幸	慶応義塾大学大学院 政策・メディア研究科委員長
	江崎 浩	東京大学大学院教授
	小島 一雄	オリックス(株) 取締役 兼 専務執行役 環境エネルギー本部管掌
	錦織 雄一	オリックス(株) 常務執行役 環境エネルギー本部長

ユビテックについて

執行役員

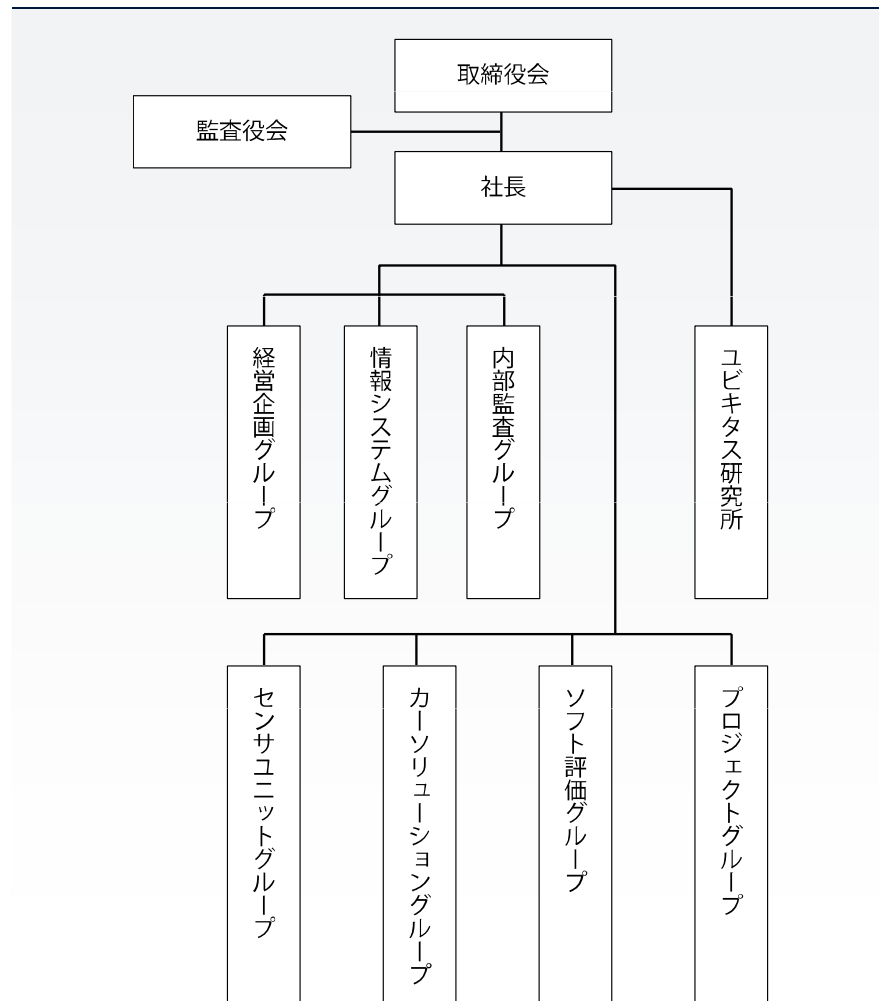
執行役員社長 **宮内 健一** ユビキタス研究所、
内部監査グループ管掌

常務執行役員 **林 雅弘** 経営企画グループ管掌

矢崎 達人 カーソリューショングループ、
ソフト評価グループ、
プロジェクトグループ、
情報システムグループ管掌

執行役員 **中山 哲郎** センサユニットグループ管掌

組織図



事業内容

電子機器事業

電子機器の設計、製造

ATMなどの紙幣鑑別用に使われるセンサユニットから業務用音響機器など、電子機器の設計から製造までを一貫した体制で提供。

自動車用情報システムの開発

オリックス自動車向けの車載端末の開発、製造及びテレマティクスシステムの開発から運用までを提供。独自サービスとして簡易車両運行管理サービスも新たに提供を開始。

モバイル・ユビキタス事業

クラウド型サービスの開発、販売

照明、空調等の自動制御による省エネサービスとビデオ会議サービス。

ソフトウェア評価

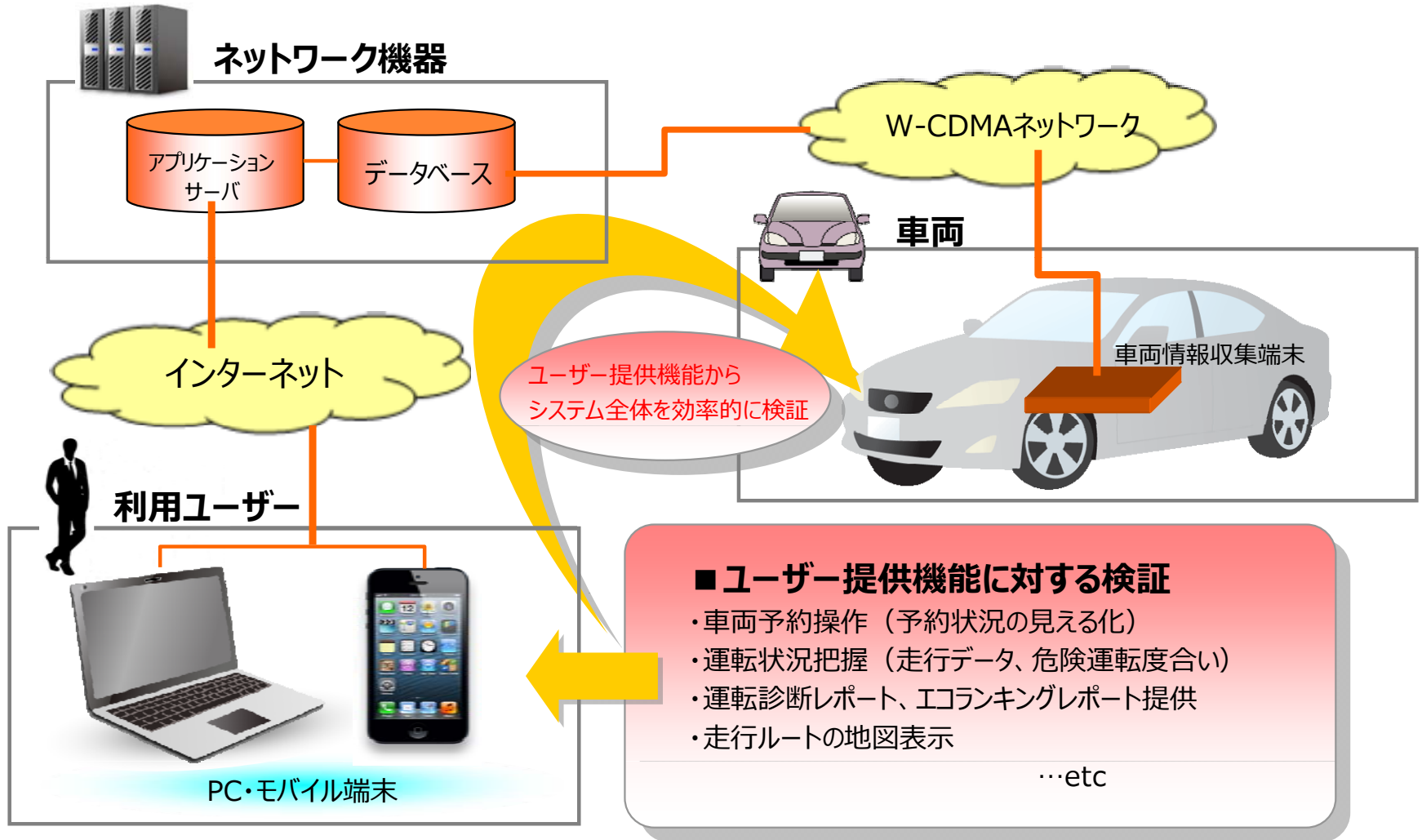
モバイル通信端末等のソフトウェアの品質、セキュリティ評価。

ソフトウェア開発

制御アプリケーションやビジネスアプリケーションの設計及び開発。

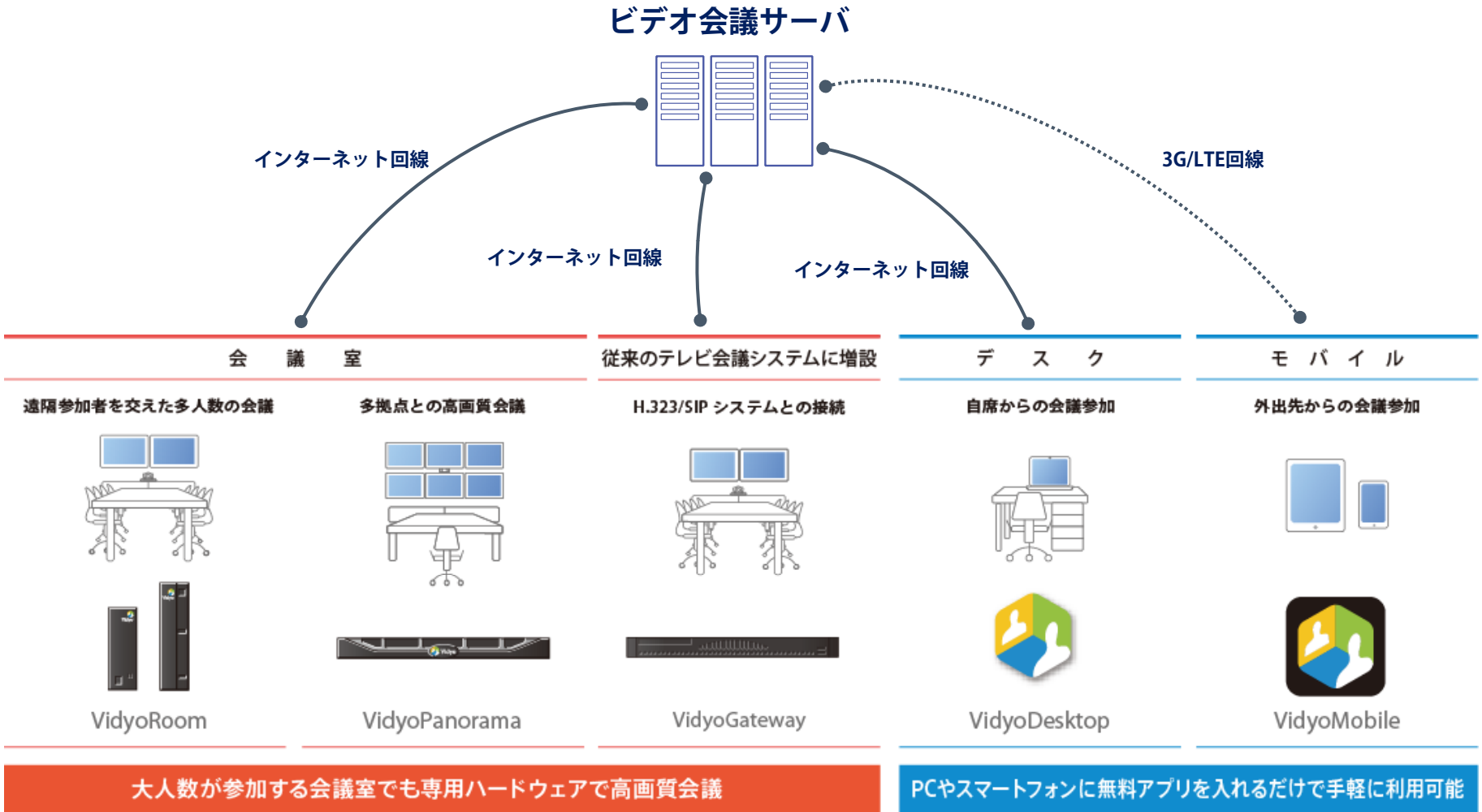
カーソリューション

- ・自動車向け情報システムの提供



クラウド型ビデオ会議システム

- 米Vidyo社のエンジンを使った高品質なビデオ会議サービス



2015年6月期第2四半期決算について

第2四半期決算概要

	主な取り組み	進捗	
全体	業績改善を目指した執行体制の改革 オリックスグループとの連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業部制組織に再編し、各事業の課題を抽出 ・ 既存顧客、オリックスグループとの関係性を強化 	
電子機器事業	センサ／ODM	次世代センサユニットの開発	<ul style="list-style-type: none"> ・ 村田製作所との共同開発を推進中
	カーソリューション	オリックス自動車との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ スムーズな生産体制を確立 ・ 新製品の開発を強化
モバイル・ユビキタス事業	クラウド型サービス	販売体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビデオ会議サービスの販売代理店網を構築し、ユーザー数は着実に増加 ・ 省エネサービスは販売体制の見直し中
	ソフトウェア評価	組込み機器のセキュリティ評価基盤構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般社団法人IIOTとの共同開発を推進 ・ 業界間連携の枠組みを構築中
	ソフトウェア開発	医療等の特定市場にフォーカスし高稼働率を維持	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多数の引合いを獲得中

第2四半期決算概要

		概要	売上高 [百万円]	営業／セグメント利益 [百万円]
全体		前年同期比で増収増益を達成	1,688 前年同期は1,433 前年同期比17.8%増	76 前年同期は△82
セグメント別	電子機器事業	紙幣鑑別センサモジュール、 テレマティクス車載機など 量産品の販売が増加し大幅増益	1,194 前年同期は1,001 前年同期比19.2%増	204 前年同期は109 前年同期比87.1%増
	モバイル・ ユビキタス事業	自社開発製品の販売では苦戦が続くも、 ソフトウェアの受託開発と品質評価を 中心にセグメント利益は確保	493 前年同期は431 前年同期比14.5%増	5 前年同期は△39

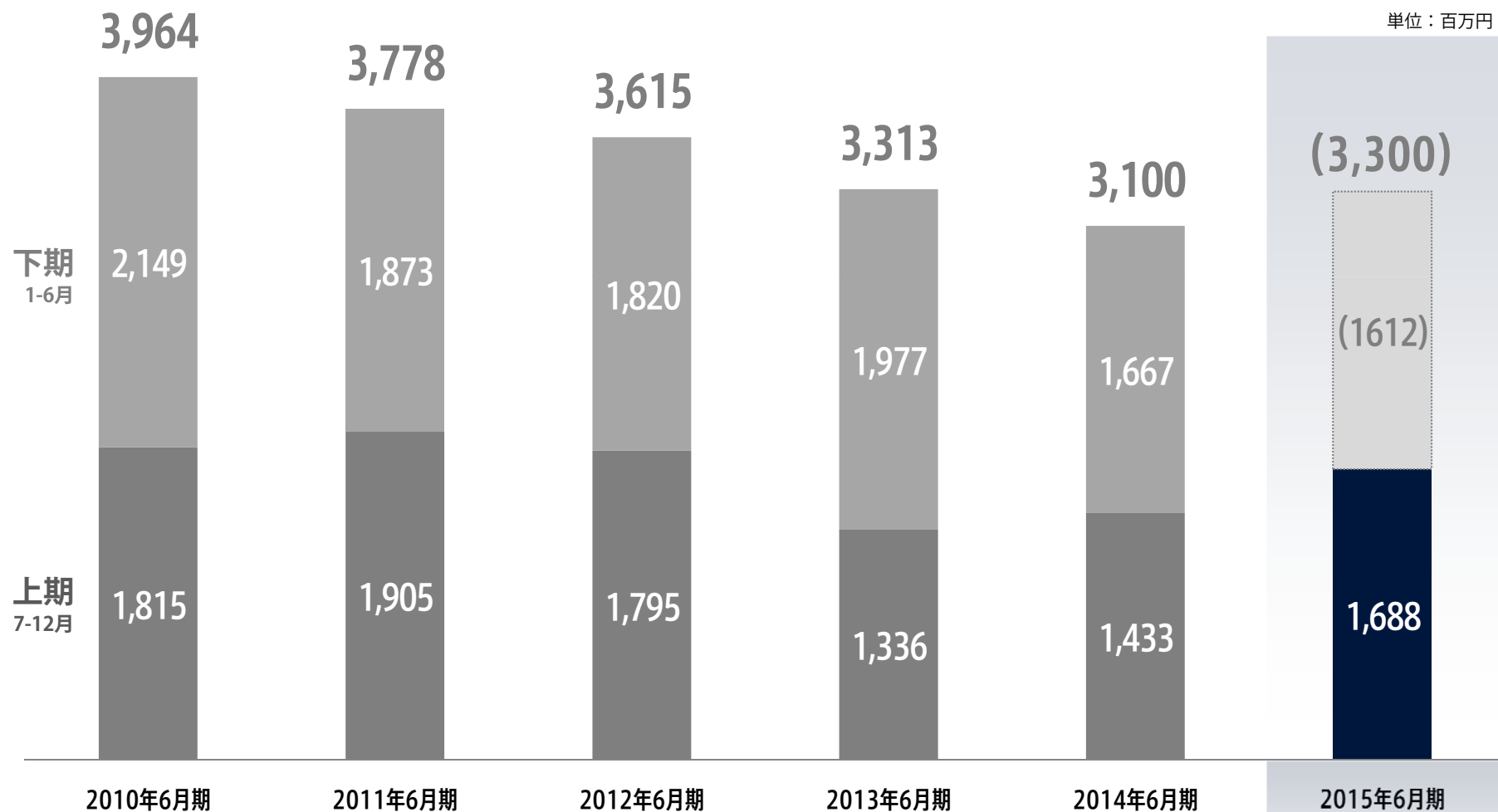
※2015年6月期第1四半期連結会計期間より、各報告セグメントに集約する事業セグメントを変更しています。

損益計算書

- 量製品の売上増加により売上総利益率が改善
- 研究開発費の絞込みとコスト削減により販管費が減少

[百万円]	2014年6月期2Q	2015年6月期2Q	前年同期比
売上高	1,433	1,688	+17.8%
売上総利益	197	291	+48%
販売管理費	279	214	-23.2%
営業利益／営業損失	-82	76	
営業利益率	-5.7%	4.5%	
経常利益／経常損失	-86	76	
四半期純利益／四半期純損失	-64	41	

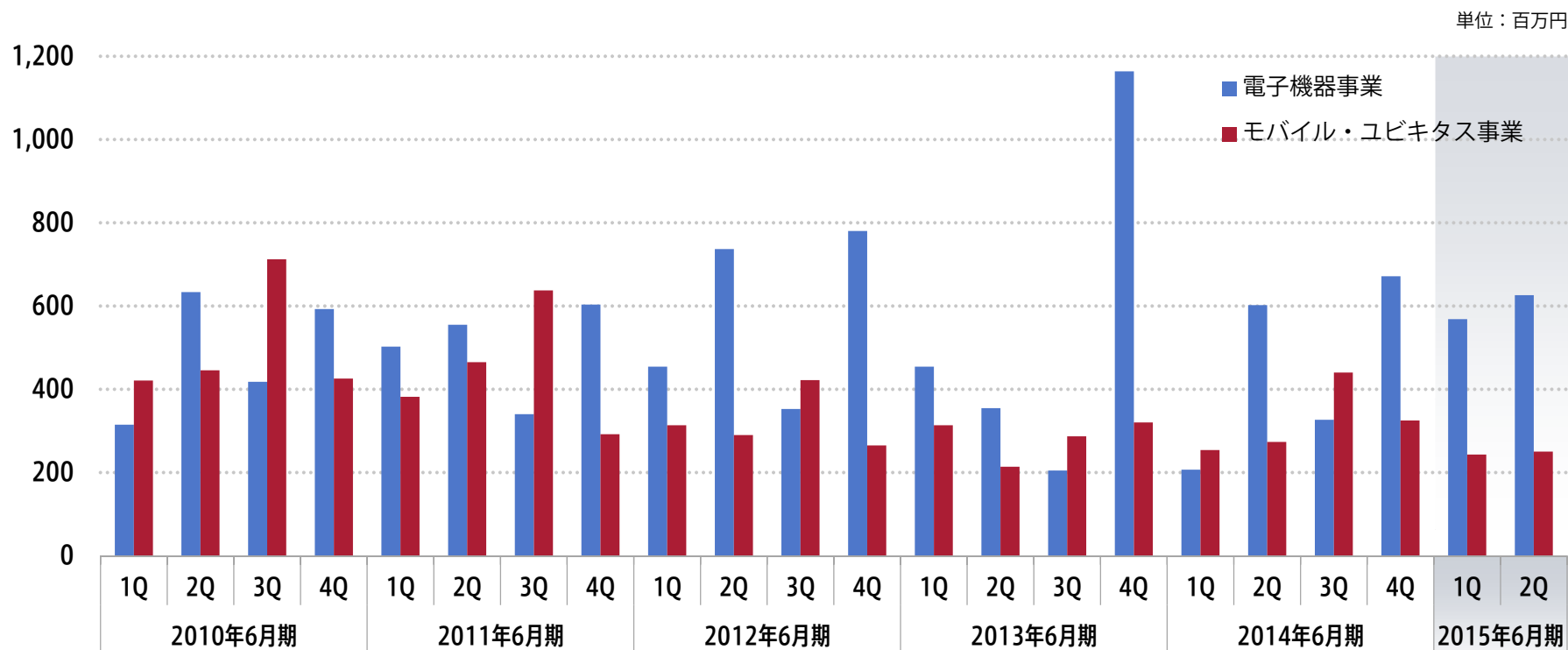
売上高の推移



売上高の推移

セグメント別比較

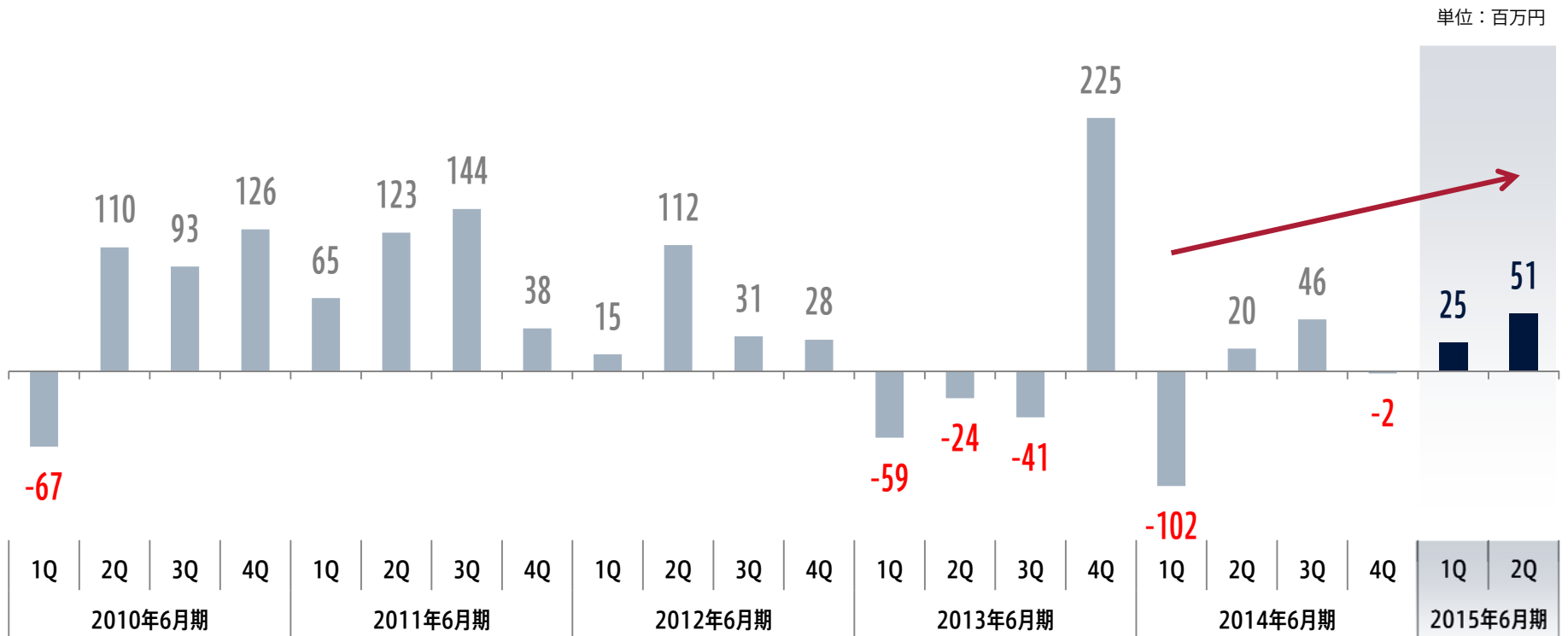
- 電子機器事業での紙幣鑑別センサモジュール、テレマティクス車載機などの量産品の販売が増加し売上回復に寄与。
- モバイル・ユビキタス事業で自社開発製品を中心とした事業構造への移行を目指したが、省エネソリューションなどの販売で苦戦し売上が低迷。



営業利益の推移

連結

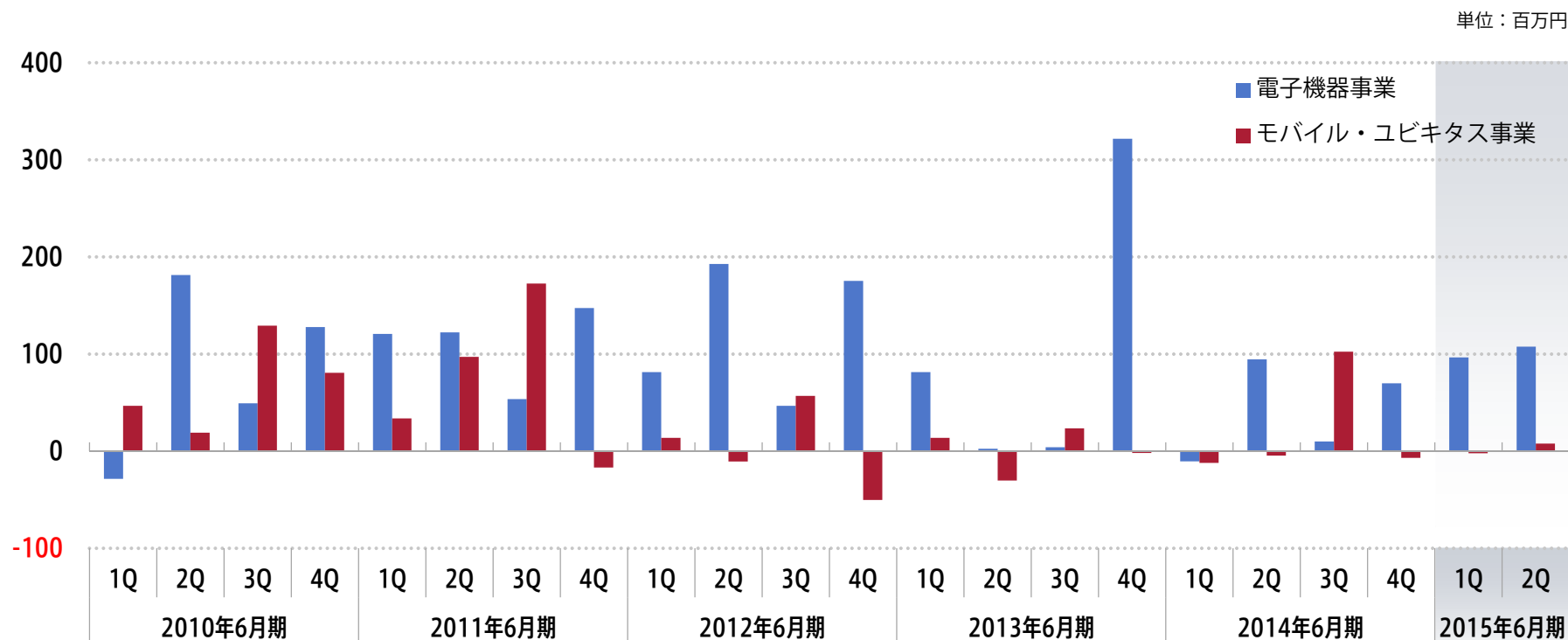
- 2014年6月期までは売上が減少するなかでの自社開発製品への先行投資が響き営業赤字が続いていたが、2014年10月より経営体制の改善に向けた改革に着手。
- 2015年6月期は紙幣鑑別センサモジュール、テレマティクス車載機などの量産品の販売増と、研究開発を重点分野に絞ったことなどにより営業利益を回復



セグメント利益の推移

セグメント別比較

- 電子機器事業は季節性はあるものの安定的に利益を確保。
- モバイル・ユビキタス事業は、ソフトウェアの受託開発などが安定的に利益を上げるも、自社開発製品への先行投資と販売低迷が響き赤字体質に。



2015年6月期の見通し

2015年6月期連結業績予想

		主な取り組み	[百万円]	上期実績	通期予想	進捗率
全 体		業績改善への改革を引き続き実行 中期経営計画の検討	売上高	1,688	3,300	51%
電子機器事業	センサ/ODM	次世代センサユニットの開発と拡販	営業利益	76	100	76%
	カーソリューション	オリックス自動車との協業による 新サービスの開発	経常利益	76	100	76%
モバイル・ユビキタス事業	クラウド型サービス	販売体制のさらなる強化	当期純利益	41	62	66%
	ソフトウェア評価	新規顧客の開拓				
	ソフトウェア開発	医療等の特定市場にフォーカスし 高稼働率を維持				

記載している情報のうち、業界の動向や分析、当社の計画・見通し・戦略等につきましては、将来の業績に関する予想値であり、現時点において入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいております。

実際の業績はさまざまな重要な要素により、かかる予想値とは大きく異なる結果となる可能性がございますことをご了承下さい。

なお本資料は、投資勧誘を目的として作成したものではありません。

投資に関する決定は、ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。